

日本電氣機械工組合趣意書

我國の工業は世界大國の地位を占め我國の勞働者の智識と技能は實に天下の認識する所なり、由來工業勞働は國家危急の奉仕と平時經濟發展の大任を双肩に擔ふものにして、今や勞働者の地位は國家中堅と云ふべく、自ら覺醒して向上發展の修養に努め重大職務の遂行に奮闘せざる可からず、工業の發達は從業員の健全優秀なる技術に據らざる可からず、然るに工業從業員の機關として種々の團體在りながら社會より是れを輕視せられたる、あるは遺憾ならずや、殊に今後勞働者生活の向上を計るに於ては社會及資本家と接衝すべき問題の多々あるべきに、勞働者現時の状態を以てして容易に解決を得るべしと思はれず、是に於てか勞働者相互の智識向上を圖ると共に利益幸福を擁護するの必要上、茲に自治團體を組織し今後勞資の解決を温みの内に未然に葬るの機關として本組合の設立を急施せんとする時代の必要に迫れり、同志の熱烈なる賛成を得ば幸甚

大正十年十一月

日

神戸市兵庫大開通二丁目(兵庫キリスト教會西隣)

日本電氣機械工組合創立事務所

創立委員長 宮崎 勝之

殿

切 取

◎發會式及講演會

(諸君來會賛成)

日時 大正十年十一月六日午後正時(發會式舉行)

場所 津川新聞地舖座權總表會ニ於テ

講演會ハ發會式終了後即時開會ス

辯士

辯護士 西見 芳宏 氏

酒井 浩洋 氏

辯護士 高木 陸雄 氏

山本 鯉城 氏

小八木

氏

宮崎 勝之 氏

外 數 名